

国際交流基金助成事業報告書

薬学部 3年次生 田口 真希

1. はじめに

2016年8月10日～12日までの期間、本学国際交流助成事業の助成を受け、東京都八王子市で行われた Team medics summer conference 2016 に参加しました。「病院をよりよくする」ことをテーマに、デザイン思考のプログラムに、九州や北海道など全国から集まった医学部や看護学部などの学生約75名と参加し、充実した3日間を過ごしましたので報告いたします。



図1 参加者集合写真

2. Team Medics Summer Conference 2016 について

Team medicsとは、英語で医療サポートを行う医学生有志団体であり、この summer conference には、全国から Team Medics メンバーや医学部生が集まり、グローバルで活躍する医療界の大先輩や、マイクロソフト社といった医療の最先端でプロダクト開発をするビジネス領域の方々からのインプットをもらい、私たちが次の世代として構築すべき医療界について熟議をする3日間の会議合宿です。デザインシンキングという手法をワークショップで学びながら、議論だけに終わらず、アウトプットにつなげることを目指したものです。

プログラムの大部分が英語で行われ、ゲストによる講演も英語で行われました。互いに多様な視点を学び、より深い議論を実現するため、医学生や、医療系学部生以外の参加もありました。

プログラムの概要は以下の通りです。

- ・テーマ「理想の病院」についてグループで議論

- ・集中的に Design Thinking を実践
- ・Healthcare の第一線で活躍する方々の講演
- ・Presentation Contest
- ・チャリティコンサート「地球のステージ」



図 2



図 3



図 4

図 2～4 : Design thinking workshop の様子

3. Design thinking・Leadership workshop

欧米スタンフォード大学を始め多くの教育機関や、医療やパブリックヘルスの分野でも注目をされ初めて来た「デザインシンキング」と、「リーダーシップ」のワークショップが英語で行われました。1グループ4人のグループに分かれ、それぞれデザイン思考を活用して病院が抱える課題を解決するプロジェクトに取り組みました。3日間を通して問題解決に大切なリーダーシップスキルやチームワークスキルを並行して学びながらプロジェクトを進め、最終日には医療に携わる企業からお越しいただいた審査員の方々の前で解決案の提案を行いました。

合宿参加の事前課題として、「病院でのよかった経験と悪かった経験」について何人かにインタビューし、それを元に”Problem”と”Solution”についてディスカッションしました。私たちのグループは「病院での待ち時間が長い」ことを問題点としてあげ、「待ち時間を予測できるアプリケーション」を作ることによって解決することを考えました。ディスカッションでは様々な意見が出たり行き詰まったりしましたが、時々フィードバックを行うことで問題点を透明化していきながら話を進めることができました。その合間にはいろいろなミニゲームのようなものをしていきました。そのゲームを通して、お互いを知り信頼し意見を交わすことや素直に受け入れる心の大切さ、言葉にして伝えなければ人それぞれ見え方が違っていたりチームの方向性が違っていたりすることがあること、などを学びました。それと同時に自分のことをよく知ること、自分が考えていることを明確にし、相手に伝えることの重要性も感じました。このような考え方をグループワークで活かして、段々よりよいチームを作ることができました。最終日のプレゼンテーションの準備のため、寝る時間を割いて夜中の2時半まで作業を行いました。熱意のあるメンバーに恵まれたと感じました。

プレゼンテーションではどのグループも似たような”Problem”に焦点を当てていましたが、それぞれが異なった方向の”Solution”を提案しておりとても面白いと思いました。どのアイデアも画期的で興味深いものでした。審査員の方々は日本マイクロソフト・インテル、東京海上日動、順天堂大学、メディフォン、デザインシンキングの先生方でしたので緊張しましたが、私のグループは”HOSPITIME”と称した病院検索・待ち時間と診療終了時間の予測ができるアプリを考え発表し、見事”best idea award”を獲得することができました。審査員の方々からは「是非実現させてほしい」と講評をいただきました。



図 5 Best Idea Award を獲得した筆者

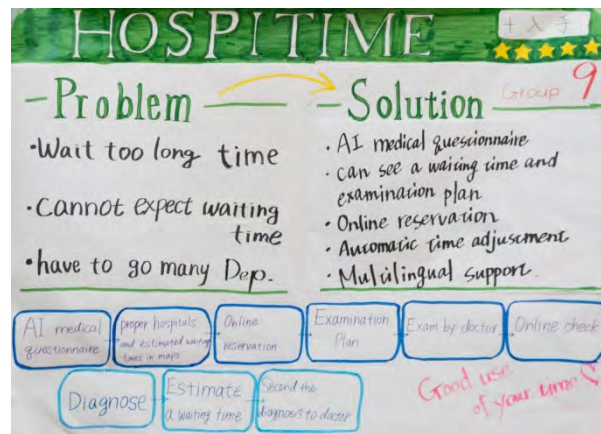


図 6 筆者の発表したポスター

4. その他講演会

デザインシンキング以外に、グローバルに活躍する医療界の大先輩や、ビジネス領域の方々からの講演会もありました。福島県相馬中央病院の越智小枝先生からは東日本

大震災の経験や公衆衛生についてのお話がありました。インフラが整っていない災害時の病院でどうすべきか、病院に残った入院患者をどうすべきか、など災害時には色々な問題が発生することを知りました。また、東京大学大学院医学系研究科国際保健政策学教室教授の渋谷健司先生からは、主に 2035 保健医療の話やシステム社会とグローバル化の時代におけるキードライバーの要素について学びました。厚生労働省の吉田拓矢先生からも 2025 地域包括ケア、地域医療構想、日本の超高齢社会における問題点の解決手法が注目されていることについて、お話を聞きました。

普段なら直接お話を聴くことのできない先生方による講演だったのですが、先生方は英語でしたので、私の英語力不足のせいで内容を完全に理解することができずとてももったいなく感じましたし残念に思いました。

また、マイクロソフト・インテル、東京海上日動の方からも講演があり、医療とは関係なさそうなエンジニア系の内容かと思っていましたが、とても画期的な開発がおこなわれていることや最先端の技術を知ることができ、医療の発達に大きく関与していると感じました。私が知らないだけで世界はどんどん先へと進んでいることを実感し、社会の流れについていけるように普段から広い視野を持ち情報収集をするべきだと感じました。



図 7 講演会の様子：越智先生



図 8 講演会の様子：インテル

5. 最後に

3日間の合宿を通して自分のこと、他学部のこと、チームの中で大切なことを学び、たくさんの知識を得るとともにさまざまな貴重な経験をすることができました。参加者のほとんどが医学生の中、薬学を学ぶ私にとっては他学部の学生と意見を交わすことはとても新鮮でした。幸運にも同じグループ内に薬学・医学・看護の学生がいたので、情報を共有することができました。学部が違えば視点も違いますし、知識も異なるのでお互いに知っていることを共有できたことがよい経験となりました。自分だけで一つのことを解決するのは難しいですが、色々な方向からの意見を踏まえて、最終的な結論を導き出すことが大事だと思いました。将来、チーム医療でも活かせると思いました。また、今まで相手の話を聞いて消化して終わりにしていたことが多かったのですが、“Yes, and…”で相手の意見を取り入れて、自分の考えを返すことが大事だと感じました。そ

れを行うことで新しいアイデアが生まれ、より良いチームになり、よりよい解決策が生まれると実感しました。さらに、同じものを見ていても人それぞれが異なる見え方や解釈をしている場合もある、と気づかされました。そのため、チームのプロジェクトを進めていく際はお互いに目指す方向性が同じであることを再確認していくことがカギだと思いました。また、自分が思っていることが当たり前ではないことに改めて気づき、自分の価値観を内省する機会になり、これからの人生をどのような価値観をもっていかししっかりと考えていきたいと思いました。ワークショップ中以外にも、夜はルームメイトと、お互いの学部の話や勉強のこと、将来どんな医療人になりたいか、生と死など、とても濃い内容を議論しあいました。普通の会話の中でこのような話題が出てきたことに驚くとともに、明確な目標を持って日々頑張っている人がいることに気づかされ触発されました。全国から集まった学生にはいろいろな知識や経験があり、エネルギーに溢れていました。また、英語力も非常に高くとても焦りも感じました。

最後になりますが、この Summer Conference を紹介してくださったスミス朋子先生に感謝の意を示すとともに、この貴重な経験を生かして今後益々精進していきたいと心より思っています。ありがとうございました。



図 9 審査員の方々と全体写真